

シリーズ「エスペラントの今」 No. 3

エスペラントの現状を様々な面からご紹介するシリーズの第3回目をお届けいたします。ご質問、取材問い合わせ等は、当協会広報委員会までお願いします。

■ボーイスカウトとエスペラント

世界で3,000万人が参画する世界最大の青少年運動組織ボーイスカウトの世界規模の行事「第23回世界スカウトジャンボリー」が、3万人の参加者を集め、今夏、44年ぶりに日本で開催されます。(2015年7月28日～8月8日 11泊12日、山口県山口市阿知須・きらら浜)。このボーイスカウトの運動は、エスペラント運動と、長くて深いかわりがあります。

ボーイスカウト運動の創設者の英国のベーデンパウエル卿(1857-1941)は、運動の原点といえる著書「Scouting for Boys」(1908年)で、信号術&通信術の手段として、ボーイスカウトが、エスペラントを習得することを推奨していました。

「スカウトたちが班の中での内緒のコトバを使ってみたいなら、揃ってエスペラントを勉強してみるとよい。難しくない上、1ペニーの小冊子で勉強できる。このコトバは全ての国々で使われているので、今やこのコトバで外国に行くこともできる。」

「手旗やモールスコードを教えてあげなさい。できることなら、エスペラントも教えてあげなさい。人に知られないうちに急報する技の競い合いを奨励するようにしてあげなさい。」

のちにガールスカウトの総長となる、配偶者のオリーブ・ベーデン・パウエルも、エスペラントに好意的であったことが知られています。

1918年「スカウトエスペラント連盟」が創設されています。エスペラントへの言及が創設者の著書にもあったことから、エスペラントを学んだ世界各地のスカウトが、国際活動を始めていたためです。この創設は、世界スカウト機構(創設1922年)に4年先行したものでした。

1921年 昭和天皇が皇太子として、英国皇帝の戴冠式に出席した際、随員した二荒芳徳伯が英国から持ち帰った「エスペラントの隊旗」が那須野営場に伝えられています。

1933年 第4回世界スカウトジャンボリーでは、参加国によっては、自国から派遣のスカウトの10%以上がエスペラント話者となるに至り、「エスペラントを第3の公用語にする」と決議されました。

この決議は、ファシズムの台頭でエスペラントが弾圧を受け、戦後の東西冷戦下でも誤解や偏見からエスペラントが危険視されたことが災いして、1957年に取り消されます。しかし、1964年、有用性を再評価され、世界のボーイスカウト運動のなかで名誉回復されるに至りました。

4年ごとに開催される世界スカウトジャンボリーでは、地球環境や文化交流のコーナーで、エスペラントを通じてスカウトの国際理解をすすめるブースが開設されることが恒例となっています。今夏のジャンボリーでも、スカウトエスペラント連盟の支援を得て、日本エスペラント協会出展の、エスペラントブースが開設されます。

ベネズエラ、マレーシアなどから来日の若手スカウト経験者や、地元山口県からの老若男女の仲間を交えて、世代国籍を超えた交流を深めるよう準備中です。